BOOK INFORMATION

ジャズをかけて、スターバックスのラテを飲みながら憲法を考える

松井茂記 編著

担当編集から 本書は2016年刊の『スターバックスでラテを飲みながら憲法を考える』の続編にあたります。いわば「スタバ憲法」の第2弾です。編著者の松井茂記先生と同世代の憲法研究者（憲法55年の会：松井先生の本書「はじめに」によれば「フォーマルな組織があるわけでもない，単なる同世代の同業者の緩やかな親睦組織」）を中心に執筆されました。書名がスターバックス「で」から「の」に変わり，また本書カバーに描かれたカップに持ち手（ハンドル）が付いたのは，私たちの生活様式を大きく変えたコロナ禍を象徴しています（「宅飲み」）。とはいえ，憲法学から現代社会に向けて問題（論争）提起をしようという本書のコンセプトは変わっていません。お好きなBGMでも流しながら本書を楽しめば，きっと，それまで気付かなかった新たな視点を得られることでしょう（ちなみに右画像は「スタバ憲法」第1弾です）。（TS）

詳細を見る

- 用途 - 教養
- 対象 - 一般

2025年9月発売／238頁／定価2530円（税込）
四六判／並製

Point さまざまな問いかけが好奇心を刺激します。

1 凍結受精卵は「人間」か？（松井茂記）

2 「妊娠中絶の自由」は本当に女性を幸せにするか？（紙谷雅子）

3 憲法二四条は異性婚に限定しているのか？（棟居快行）

4 裁判のテレビ中継を認めるべきではないか？（鈴木秀美）

5 わいせつな表現を自由にすべきではないか？（市川正人）

6 ストーカー被害を防げなかった国には賠償責任があるのではないか？（渋谷秀樹）

7 デジタル社会は憲法変遷を引き起こすか？（赤坂正浩）

8 医療従事者に対する予防接種の義務付けは憲法に反するのではないか？（笹田栄司）

9 国がそこまで宗教にコミットしてもいいのか？（安念潤司）

詳細は，小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。